

STEP 2

女性医師の活躍推進を応援するために何が出来るだろう？ ～医療界みんなでDoポジティブアクション！～

政府は2003年に「社会のあらゆる分野において、2020年までに、指導的地位に女性が占める割合が、少なくとも30%程度になるように」という目標を示しており、2010年12月の第3次男女共同参画基本計画では、この目標の達成に向けて、実効性のある取り組みの積極的改善措置（ポジティブ・アクション）を推進しています。

私たち医療界においても、「男女とも働きやすい職場環境を整備する」「女性医師が活躍する分野を広げる」「女性医師の活躍（キャリア）を継続させ、女性医師の管理職（役職者）を増やす」などの取り組みを推進する時期に来ています。

ポジティブアクション情報ポータルサイト

<http://www.positiveaction.jp/pa/index.php>

病院の場合

運用 勤務緩和措置の柔軟な運用

出産から就学前ばかりでなく（※1）学童期の子育てでママにも利用できる、勤務緩和制度を整備しましょう。

環境整備 医療チームカンファレンスの時間内実施

主治医制からチーム制への移行は、情報共有など医療安全の観点から大切です。カンファレンスの勤務時間内での実施は、残業が難しい立場の女性医師ばかりでなく、全ての勤務医の環境改善にもつながります。

新しい取り組み 人事評価制度の積極的活用

高度な専門職である医師の人事評価は難しいものがあります。しかし、時間当たりの診療に関する貢献度、対患者や対コメディカルなど様々な人間力を評価する人事評価制度は、女性医師にとって、モチベーションをあげてくれるありがたい制度となるでしょう。

新しい取り組み 病院見学の日

職員の家族を対象として「お仕事見学の日」を作るのはどうでしょうか？お父さん、お母さん、夫、妻の働く姿を見てもらうのは、家族からの強力なサポートを得る大きなチャンスとなることでしょう。

※1リーフレット「妊娠・出産・育児中の女性医師が働きやすい職場づくり」参照

http://www.jaog.or.jp/diagram/notes/lyoseiDR_2008.pdf

学会の場合

運用 役員などに就く女性医師の増加

医学系の各学会において、役員、評議員、各種委員会委員などを務める女性医師の数はまだまだ少なく、数値目標を掲げるなどして増加を促すことは必要です。例えば、日本産科婦人科学会は、会員の29.1%、46歳以下の50%以上は女性医師で、対象患者の殆どは女性です。しかし、女性代議員の数と代議員に占める女性の割合は、2009年6名、1.6%、2011年17名、4.6%と、まだまだ女性のリーダーは少数派です。

環境整備 e-learningなど専門分野の学術的支援

出産・育児などでキャリアにブランクができた時、その間に新たな知見や治療法ができていないのでは？という不安は、女性医師の復職へのハードルを上げています。学会のホームページにそのような知識がアクセスしやすい形でまとめられていたら、という要望はブランクを乗り越えて復職した女性医師からも聞かれます。

新しい取り組み 学術集会での子ども向け企画

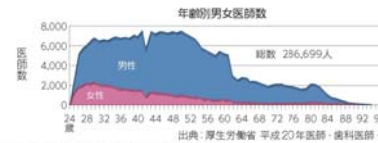
子どもが小学校に入ってから預かってくれる学術集会に付属する託児所や、小学生、中学生などの子弟対象の小旅行や社会見学会などを学会が企画してくれたら、子どもの経験を豊かにする絶好のチャンスとして、win-winな親子関係を望む女性医師の学会参加（男性医師の子連れ参加も）が増えるかもしれません。

STEP 3

現状を知り、使命感をもってキャリアを継続しましょう。

①：政府の対応

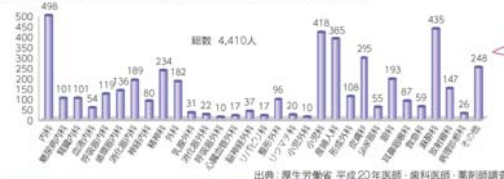
医師不足の声を受けて、政府は2007年5月に緊急医師確保対策を発表しました。その中で、出産や育児による医師等の離職を防止し、復職を促すため女性医師等の働きやすい職場環境の整備が必要とされています。2011年度予算にも「女性医師等の離職防止・復職支援」として国家予算が計上されています。



医師になる女性は年々増加し、若手女性医師は急増しています。

②：みんないろいろな診療科を選択しています！

平成18年医師・歯科医師・薬剤師調査にて研修医と回答した女性医師が、平成20年医師・歯科医師・薬剤師調査にて回答した診療科（主なるものを抜粋、残りはその他に含む）



若手女性医師が自分の科への道を選択していることがわかります。

一プロフェッショナルとして活躍しつづけるための7か条ー

1. 周囲の支えで今のキャリアがある
資格やキャリアは自身の努力ばかりでなく、家族や社会によって育成されたことを思い返してください。
2. 社会で役立つはじめてキャリアは意味を持つ
仕事の継続は自身のためばかりでなく、社会へ向かって能力をきちんと生かすべき使命があることを自覚しましょう。
3. キャリア形成は長期ビジョンで
一時的にペースダウンすることあっても、長期的に自身のパフォーマンスを向上させようとする気持ちを持ちましょう。
4. キャリアコースの選択は多く相談先も多く
時にそこそこで良いと思うこともあります。1人で悩まないで、メンターや学会・医会的女性医師支援サイトを利用しましょう。
5. キャリア継続は社会の手もかりて
数ある女性医師の就労支援策を知って上手に利用し、ワーク・ライフ・バランスを考えながら、キャリア・アップをしましょう。
6. キャリアデザインを意識して
先輩方の体験や知恵がほしいのこのリーフレットをぜひご活用ください。困ったとき、迷ったときには頼れる道しるべになります。
7. みなさん一人ひとりが新しいキャリアのロールモデルに
自身が後にくる女性医師たちのロールモデルとなって、女性医師ばかりでなく、全ての医師が働きやすい未来を作ってください。

平成22年度厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業） 「女性医師離職防止のための勤務支援好事例の収集と検討」

研究代表者	安達 知子	母子愛育会愛育病院長 産婦人科 部長
研究協力者	中井 章人	日本大学多摩東山病院産婦人科副院長 教授
	木戸 道子	日本赤十字社医療センター 第二産婦人科副部長
	奥田 美加	横浜市立大学附属市民総合医療センター 総合周産期母子医療センター 准教授
	安田あゆ子	東海北陸厚生局 臨床研修審査専門官
	山崎 亜子	愛育病院
アドバイザー	河野真理子	株式会社キャリアネットワーク 代表取締役会長

女性医師活躍推進のための 女性医師のキャリア・デザイン ～輝き続けるために、自分が、社会ができること～

明日の医療を支え、共
女性医師のモチベーションが
周囲のサポートと

医学会学術集会
特別講演 教授



STEP 1

医師のキャリア・デザインについて考えてみましょう！

先輩医師たちだって、誰もが若い頃から明確なキャリアビジョンを持っていたわけではありません。でもこんなこと考えていたらもっと計画的に過ごせたかも、という意見を集めてみました。

診療・医師としての専門性 ～生涯にわたる興味を優先して～

医師としての専門を選択することは今後の方向性を決める重要な作業です。女性だから、～だからと自分で可能性をせばめることなく、適性を見極め、やりたい分野を選びましょう。若いころから頂点を思い描く必要はなく、まずはキャリアの継続を目標におき、その時出来る経験に前向きに取り組んでください。

先輩の声 ライフスタイルによる多少のキャリア中断は、後で考えるとあまり気にならないので、臨床業務や専門性の追求をあきらめず継続してください。

【参考】どんな病院で働けるのかしら (臨床研修) ?

臨床研修プログラム検索サイト <http://www.reis.jp.org/common/ad0.php>

どんな専門があるのかしら？

社団法人日本専門医制度評価・認定機構のHP <http://www.japan-senmon-jp/>

キャリアを長い目でみて、生涯にわたる興味を持って続けられる専門を選択しましょう。



医学部卒業

～キャリア初期～
晴れて医学部を卒業して、研修が始まりワクワクドキドキ。それとも慣れない業務に追われて四苦八苦？ ちょっと深呼吸してこれからの自分について考えてみましょう。



子ども ～育児は、教育は？～
しつけ・教育のこと、二人目三人目の予定など、誰でも悩むものです。子育てにパートナーの協力は不可欠ですが、第三者の手(社会サポーターや民間サービス)を活用することも柔軟に考えましょう。まず、「どのように育てたいのか」という子育てビジョンをもち、具体的なプランを検討してみましょう。
先輩の声 子育てが医師としての仕事にプラスになるばかりでなく、また、育児が理由で異なる専門性の仕事(健診センター、行政など)に就く場合も、人脈を広げる、異なる価値観を育むなど、将来のキャリアにつながるプラス面も得られます。
仕事とプライベートをうまく調整しながら両者を充実させる、ワーク・ライフ・マネジメントの考え方を意識してください。

経済面 ～キャリアデザインの土台の一部～
育児で勤務時間が限られ収入が減ったり、学費や夫の単身赴任などでの支出増、現役を退いた後の備えは？などはキャリアの局面ごとに考える要素です。常勤である期間が短いと、後の退職金、年金額にひびくなど、短期的視点だけでは見落としがちな問題も指摘されています。
先輩の声 パートナーの健康状態や離別などで、急に一家を支えなければならぬ必要性が生じ、医師を続ける使命感を改めて感じた気がします。
マネープランにも責任を持って、主体的に考えましょう。

家族の健康 ～とても重要なインフラ～

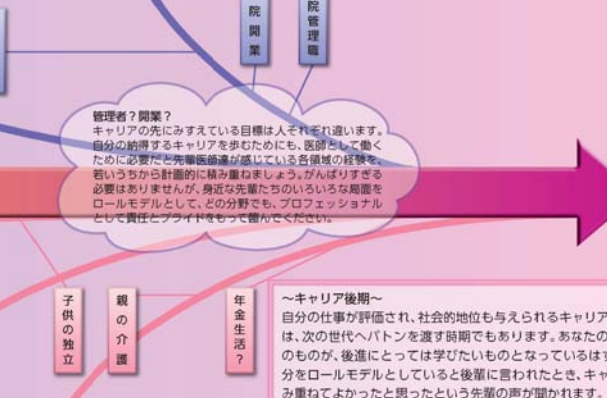
家族の日々の体調管理はもちろん、自分も歳とともに健康には気をつけるようにしましょう。また、両親の介護は誰にも訪れる課題です。育児と異なり「いつからいつまで」と読めないため、キャリアに影響が出がちです。いざという時のために、対応策を検討しておきましょう。家族の病気の介護の経験は、大変ではありますが、医師としてのあなたにきつと何かを与えてくれることでしょう。

先輩の声 自身の親を自宅で看取った経験は、辛く大変ではありましたが、家族の健康や、罪の深さを実感するとともに、その様な背景をもつ患者さんを理解し、より親身な診療ができるようになりました。
家族の元氣は医師としてのあなたを支えます。

～キャリア中期～
家事、育児もあるし、診療、研究、教育それぞれで責任を負う立場となる時期が来ます。マネジメント力など様々な能力を磨いて次のステップに備えてください。

診療トラブル・医療事故・裁判？
診療過程や結果が望ましくなければ、大きなトラブルになることを経験するかも知れません。前々難い挫折から、現状では男女問わずキャリアの中断を選択してしまうこともあります。
各医師が医師患者関係を良好に構築するスキルを習得するとともに、現場や制度などがエラーを前向きに吸収し改善するシステムを構築していく必要があります。

管理者？開業？
キャリアの先にみずえている目標は人それぞれ違います。自分の期待するキャリアを歩むためにも、医師として働くために必要な先輩医師達が感じている各領域の経験を、若いうちから計画的に積み重ねましょう。がんばりすぎる必要はありませんが、身近な先輩たちのいろいろな場面をロールモデルとして、どの分野でも、プロフェSSIONALとして責任とプライドをもって働いてください。



キャリア

ライフ